

2012年4月7日現在

著書

【単著】

- 『確率と曖昧性の哲学』、岩波書店、2011年3月、320頁
『死の所有－死刑・殺人・動物利用に向きあう哲学』、東京大学出版会、2011年1月、408頁
『功利主義と分析哲学－経験論哲学入門』、日本放送出版協会、2010年3月、280頁
『原因と理由の迷宮－「なぜならば」の哲学』、勁草書房、2006年5月、317頁
『原因と結果の迷宮』、勁草書房、2001年9月、312頁
『人格知識論の生成－ジョン・ロックの瞬間』、東京大学出版会、1997年5月、376頁

【編著】

- 『低線量被曝のモラル』、伊東乾・影浦峽・児玉龍彦・島藺進・中川恵一諸氏との共編著、河出書房新社、2012年2月、351頁（担当部分・「はじめに」pp.1-9、「因果関係とは何か－低線量被曝の因果的影響をめぐって」pp.219-250.）
『ヒトと動物の死生学－犬や猫との共生、そして動物倫理』、新島典子氏との共編著、秋山書店、2011年3月、167頁（担当部分・「まえがき」pp.3-9、「動物への配慮」の欠落と充実」、pp.143-159.）
『死生学 [5] 医と法をめぐる生死の境界』、高橋都氏との共編著、東京大学出版会、2008年11月、263頁（担当部分・「はじめに」pp.1-6、「加害と被害をめぐる生死の境界」pp.145-164.）
『西洋哲学史再構築試論』、共編著（監修・渡邊二郎）、昭和堂、2007年10月、609頁、（担当部分・第5章「感覚的知識の謎－ロック知識論からするプロバビリティ概念の探究」、pp.160-200.）
『西洋哲学史の再構築に向けて』、共編著（監修・渡邊二郎）、昭和堂、2000年4月、528頁（担当部分・第11章「『観念』再考－経験論の源泉へ」、pp.278-338.）
『真理への反逆－知識と行為の哲学』、河本英夫氏との共編著、富士書店、1994年3月、219頁（担当部分・序論「知識という行為－人格的知識に向けて」pp.7-17および第II章「原因と結果の概念－責任概念への帰還」、pp.56-98.）

【共著】

- 『生命科学と死生学の共働』、共著、東京大学大学院人文社会系研究科、グローバルCOEプログラム「死生学の展開と組織化」シンポジウム報告論集、2008年10月、148頁（担当部分・「はしがき：「氏」と「育ち」」など）
『岩波講座哲学02 形而上学の現在』、共著、岩波書店、2008年8月、297頁、（担当部分・「曖昧性のメタフィジックス」pp.187-212.）
『哲学の歴史 第6巻－知識・経験・啓蒙 18世紀・人間の科学に向かって』、共著、松永澄夫責任編集、中央公論新社、2007年6月、726頁、（担当部分・「モリヌークス問題」pp.168-170、「パークリ」pp.171-208.）
Philosophy of Uncertainty and Medical Decisions. Bulletin of Death and Life Studies. vol.2. 21st Century COE Program DALs. Graduate School of Humanities and Sociology. The University of Tokyo. January 2006. "Bayesianism, Medical Decisions, and Responsibility". pp.15-42.
『ヒューム読本』、共著、中才敏郎編、法政大学出版局、2005年4月、310頁、（担当部分・「自由・偶然・必然－ヒューム因果論が遭遇する暗黒」、pp.61-85.）
『感覚－世界の境界線』、共著、河本英夫・佐藤康邦編、白菁社、1999年11月、241頁（担当部分・第八章「音楽化された認識論に向けて Towards Epistemology Musicalized」、pp.165-199.）
『イギリス思想の流れ－宗教・哲学・科学を中心として』、共著、鎌井敏和・泉谷周三郎・寺中平治編、北樹出版、1998年6月、183頁（担当部分・第5章「パークリにおける神と原因」、pp.90-113.）

論文

- 「期待効用の概念をめぐる覚え書き 一原発事故と低線量被曝問題に寄せて」(『論集』第 30 号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2012 年 3 月、pp.1-33.)
- 「日本における低線量被曝論争の構図」(『東アジアの死生学 IV』、東京大学グローバル COE「死生学の展開と組織化」、2012 年 3 月、pp.38-58)
- 「ヒューム自由論の三つのスキャンダル」(『思想』第 1052 号、岩波書店、2011 年 12 月、pp.334-355.)
- 「死んだらおしまい 一形而上学と死生学と応用哲学と」(『応用哲学を学ぶ人のために』戸田山和久・出口康夫編に所収、世界思想社、2011 年 5 月、pp.84-95.)
- 「触法精神障害者についての医療診断をめぐる不確実性」(『論集』第 29 号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2011 年 3 月、pp.23-39.)
- 「戦争をめぐる事実と規範」(『戦争と戦没者をめぐる死生学』、東京大学大学院人文社会系研究科グローバル COE「死生学の展開と組織化」ワークショップ報告論集、2010 年 9 月、pp.106-114.)
- 「原因と結果と自由と」(中公クラシックス・土岐邦夫・小西嘉四郎訳『ヒューム 人性論』所収の解説、中央公論新社、2010 年 7 月、pp.1-24.)
- "Counterfactuals and Degrees of Truth" (*Philosophical Studies* XXVIII, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 27 March 2010, pp.1-8.)
- 「生命現象に基づく「自由」理解についての一考察」(『哲学研究論集』第 6 号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2010 年 3 月、pp.1-27.)
- "Freedom and Subvaluationism" (科学研究費補助金基盤研究(B)(118320005)研究成果報告書『知識・行為・制度をめぐる「因果性」と「志向性」の哲学的解明』、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2010 年 3 月、pp.6-15.)
- "The Paradox of a Dead Person" (*The Journal of Applied Ethics and Philosophy*, Vol.4, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, July 2009, pp.1-15.)
- "Plato on Moral Dilemmas: On Schofield's arguments in his 'The Rule of Knowledge'" (*Philosophical Studies* XXVII, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 27 March 2009, pp.9-13.)
- "Wittgenstein and Meaning as Cause: A Philosophically 'Uncertain' Investigation" (*Philosophical Studies* XXVII, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 27 March 2009, pp.1-8.)
- 「生命現象における決定性と偶然性 一遺伝子決定論から自然選択／遺伝的浮動の対比まで一」(『哲学研究論集』第 5 号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2008 年 10 月、pp.1-64.)
- 「個人と人格との相克 一刑事責任に見る近代の自律的人間観の陥穽とその超克」(付：韓国語訳、金光来訳)(『論集』第 26 号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2008 年 3 月、pp.38-53.)
- 「動物実験と Animal Rights」(『ヒトと動物の関係学会誌』第 19 号、ヒトと動物の関係学会、2007 年 11 月、pp.10-14.)
- 「境界線事例に対する「真理値グラッド」アプローチ」(『哲学研究論集』第 4 号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2007 年 9 月、pp.1-21.)
- 「ジョン・ロックと「所有すること」の謎」(中公クラシックス・宮川透訳『ロック 統治論』所収の解説、中央公論新社、2007 年 9 月、pp.1-23.)
- 「動物たちの叫び 一「動物の権利」についての一考察」(『応用倫理・哲学論集』第 3 号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2007 年 3 月、pp.1-43.)
- "Remarks on Epistemology Musicalized" (*Philosophical Studies* XXV, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 27 March 2007, pp.1-12.)
- 「音楽化された認識論 一 interlude 一」(『創文』第 494 号、創文社、2007 年 1 月、pp.1-5.)
- 「不確実性の認識論 一確率・因果・曖昧性をめぐって」(『哲学の探求』第 33 号、

- 哲学若手研究者フォーラム、2006年5月、pp.23-37.)
- 「ベイジアン・ネットとシンプソンのパラドックス – 「確率的因果」についての一つの覚え書き」 (『哲学研究論集』第3号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2006年5月、pp.1-21.)
- "Institutional Aspects of Knowledge" (科学研究費補助金基盤研究(B)(1431002)研究成果報告書『事実・行為・規範をめぐる知識の実践的意義の研究 – 「自然と人為」の対比についての哲学的再検討』、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2006年3月、pp.68-76.)
- 「「ソライティーズ・パラドックス」をめぐる確率と因果」 (『論集』第24号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2006年3月、pp.20-39.)
- 「自然主義的認識論のゆらぎ – 制度と曖昧性をめぐる考察」 (『自然主義と反自然主義』、哲学雑誌第120巻792号、哲学会、有斐閣、2005年10月、pp.1-28.)
- 「ベイズの認識論の可能性 – 医療的意思決定を視野に入れて」 (『思想』第976号、岩波書店、2005年8月、pp.106-124.)
- 「歴史認識における因果と確率」 (『哲学』No.56、日本哲学会、2005年4月、pp.42-62.)
- 「曖昧性の浸潤 – ソライティーズの因果説の試み」 (『哲学研究論集』第2号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2005年3月31日、pp.1-42.)
- "Does Probability Collapse or Retroact?" (*Philosophical Studies* XXIII, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 11 March 2005, pp.19-53.)
- "A Note on Abortion and the Sorites Paradox" (*The Journal of Applied Ethics and Philosophy*, Vol. 2, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, December 2004, pp.1-9.)
- 「ヒューム因果論の源泉 – 他者への絶え間なき反転」 (訳書『人間知性研究』所収の解説、法政大学出版局、2004年5月、pp.227-278.)
- 「ウイリアムソン哲学の知識第一説 – 認識説・反明輝性・証拠的条件づけ」 (『哲学研究論集』第1号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2004年3月31日、pp.1-17.)
- "Remarks on the Problem of Old Evidence in Bayesian Epistemology" (*Philosophical Studies* XXII, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 25 March 2004, pp.41-58.)
- "The Chance of Hume's Freedom" (*Philosophical Studies* XXI, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 27 March 2003, pp.1-18.)
- 「「死ぬ権利」の欺瞞」 (『死生学研究』2003年春号、東京大学大学院人文社会系研究科、2003年3月25日、pp.36-68.)
- "A Consideration on Freedom and Necessity" (科学研究費補助金研究成果報告書『西洋哲学史全体の統一的理解の研究』、2003年1月、pp.45-49.)
- 「「殺人」試論」 (『論集』第20号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2002年3月、pp.51-79.)
- 「生命倫理における「主体」 – 胎児、代理母、クローン、そして死にゆく人」 (『応用倫理・哲学論集』第1号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2002年3月、pp.1-45.)
- 「生と死の『分離』と『別離』 – 認識と死の連関について」 (東京大学公開講座73『分ける』所収、東京大学出版会、2001年5月、pp.173-200.)
- 「死の所有(下) – 「死刑」という不可能性からの倒錯」 (『思想』第924号、岩波書店、2001年5月、pp.94-107.)
- 「死の所有(上) – 「死刑」という不可能性からの倒錯」 (『思想』第923号、岩波書店、2001年4月、pp.4-28.)
- "A Note on a Probabilistic Approach to the Grue Problem" (*Philosophical Studies* XIX, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March 2001, pp.64-71.)
- "Negative Relevance in Probabilistic Causality" (文部省科学研究費研究成果報告書

- 『知識と技術をめぐる概念的研究 —基礎的哲学研究と現代的課題との架橋』、
東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2000年3月、pp.1-27.)
- "Hume and Three Concepts of Cause" (*Philosophical Studies* XVIII, Department of
Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of
Tokyo, March 2000, pp.33-49.)
- "Of Contingency" (*Philosophical Studies* XVII, Department of Philosophy,
Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March
1999, pp.1-13.)
- "The Emergence of Person" (*Philosophical Studies* XVI, Department of Philosophy,
Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March
1998, pp.18-40.)
- 「連合と記述のはざまに」(文部省科学研究費研究成果報告書『存在論・言語論・行為論
—その歴史的・体系的交錯の諸相』、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、
1997年3月、pp.41-54.)
- 「ライブニッツ人格論素描」(『論集』第15号、東京大学大学院人文社会系研究科
哲学研究室、1997年3月、pp.42-69.)
- 「キルケニーとバークリ」(『都市と思想家』I、法政大学出版局、1996年7月、
pp.72-91.)
- "Berkeley on Practical Spirit" (*Philosophical Studies* XIV, Department of Philosophy,
Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March
1996, pp.1-17.)
- 「『象徴的効用』の効用」(『imago』第6巻第8号、青土社、1995年8月、
pp.242-245.)
- "Vagueness and Our Linguistic Activity" (*Hakusan Tetsugaku* 29, Department of
Philosophy, Faculty of Literature, Toyo University, March 1995, pp.i-xxix.)
- 「因果と探究の行為」(『白山哲学』第28号、東洋大学文学部哲学研究室、
1994年3月、pp.83-111.)
- 「「見ること」における因果性 —バークリ視覚論からの考察」(『imago』
第5巻第2号、青土社、1994年2月、pp.126-134.)
- 「「グルー」と規則性の問題」(訳書『パラドックスの哲学』所収の訳者試論、
勁草書房、1993年4月、pp.317-368.)
- 「因果の時間的方向について」(『白山哲学』第27号、東洋大学文学部哲学研究室、
1993年3月、pp.142-168.)
- 「道具としての普遍」(『白山哲学』第27号、東洋大学文学部哲学研究室、
1993年3月、pp.120-141.)
- 「ロックとライブニッツにおける生得概念」(『白山哲学』第26号、東洋大学
文学部哲学研究室、1992年3月、pp.43-96.)
- 「『視覚新論』とバークリ哲学 —神・身体・同一性」(訳書『視覚新論 付：
視覚論弁明』所収の解説I、勁草書房、1990年11月、pp.197-223.)
- 「因果と人格 —ヒューム正義論からの接近の試み」(『近代哲学論叢』哲学雑誌
第104巻第776号、哲学会、1989年10月、pp.36-54.)
- 「因果と神の存在証明 —ヒュームの「意図からの証明」批判について」
(『哲学』No.39、日本哲学会、1989年4月、pp.95-106.)
- 「苦痛と人格 —ロックの行為論について」(『論集』VI、東京大学文学部哲学研究室、
1987年12月、pp.87-99.)
- 「バークリに於ける視覚と触覚」(『論集』V、東京大学文学部哲学研究室、
1987年1月、pp.96-108.)
- 「ヒュームと同一性の問題」(『イギリス哲学研究』第9号、日本イギリス哲学会、
1986年4月、pp.15-24.)
- 「ヒューム的人格同一性議論」(『論集』IV、東京大学文学部哲学研究室、
1986年1月、pp.116-128.)
- 「ヒュームの時空論」(『論集』III、東京大学文学部哲学研究室、1985年1月、
pp.146-158.)

翻訳

- 『人間知性研究 付：人間本性論摘要』D. ヒューム著、全訳、斎藤繁雄氏との共訳、法政大学出版局、2004年5月、285頁+ vii 頁
(原題・D. Hume: *An Enquiry concerning Human Understanding*, 1748, Oxford University Press, ed. by T. L. Beauchamp, 1999)
- 『パラドックスの哲学』R.M.セインズブリー著、全訳、勁草書房、1993年4月、315頁+ xxx 頁
(原題・R.M.Sainsbury: *Paradoxes*, Cambridge University Press, 1988)
- 『ホワイトヘッド - 秩序への冒険』P.G.クンツ著、全訳、紀伊國屋書店、1991年2月、290頁+ xxii 頁
(原題・P.G.Kuntz: *Alfred North Whitehead*, Twayne Publishers, 1984)
- 『視覚新論 付：視覚論弁明』G. バークリ著、全訳、下條信輔・植村恒一郎両氏との三名による共訳、勁草書房、1990年11月、196頁+ xviii 頁、担当部分・pp.100-187 および pp.194-196
(原題・G.Berkeley: *An Essay towards A New Theory of Vision*, 1709 & *The Theory of Vision Vindicated and Explained*, 1733, in *The Works of George Berkeley*, ed. by A.A.Luce & T.E.Jessop, Thomas Nelson and Sons Ltd., vol.1, 1948)
- 『哲学的評註』G. バークリ著、抄訳、季刊『哲学』第10号、哲学書房、1990年3月、38-61 頁
(原題・G.Berkeley: *Philosophical Commentaries*, 1707-8, in *The Works of George Berkeley*, ed. by A.A.Luce & T.E.Jessop, Thomas Nelson and Sons Ltd., vol.1, 1948)

講演・口頭発表・コメンテータ (主なもの)

- 「原発事故と放射能問題をめぐる論争の帰趨」(東京大学グローバル COE プログラム「死生学の展開と組織化」研究会議「慰霊と被曝をめぐる死生学」、長崎市ベストウエスタンプレミアホテル長崎、2011年12月23日)
- 「死生学プロジェクトの現在」(*The First Social Science and Humanities Forum between Japan and Russia*, Moscow State University, Moscow, Russia, 8 December 2011)
- 「特別講演・低線量被曝について」(哲学会第50回研究発表大会、東京大学文学部二番大教室、2011年12月4日)
- 「死者とは誰なのか - 震災犠牲者を想いながら -」(朝日講座「知の冒険」、東京大学文学部一番大教室、2011年10月28日)
- 「東日本大震災後の未体験ゾーン - 日本における低線量被曝論争の構図 -」(日台国際研究会議「東アジアの死生学へ」、国立中山大学社会科学院、台湾・高雄市、2011年10月7日)
- 「「音楽化された認識論」再訪」(応用哲学会臨時大会シンポジウム「音楽と哲学：表現の限界」、京都大学大学院文学研究科、2011年9月23日)
- 「「「集団錯誤の呪縛」からの解放と、その後。」コメント・質問」(応用哲学会臨時大会、W-3、京都大学大学院文学研究科、2011年9月23日)
- 「無常と不確実性にまみれて - 事実・評価・対策の三区分別を踏まえつつ -」(第6回応用倫理・哲学研究会 東京大学緊急討論会「震災、原発、そして倫理」)の「導入」、東京大学大学院人文社会系研究科、2011年7月8日)
- "Rethinking The Death Penalty: Uncertainties over Harm, Blame, and Dangerousness" (*Tenth East-West Philosophers' Conference. Plenary Session "Distinguishing Worth and the Worthwhile"*, University of Hawaii at Mānoa, East-West Center, Imin Conference Center, 18 May 2011)
- 「死の被害性」(日本イギリス哲学会第35回研究大会・緊急セッション「東日本大震災のなかで - イギリス哲学研究からのメッセージ」提題、京都大学、2011年3月28日)
- "Death Penalty and Human Rights" (*The 2010 Uehiro Lectures, 'Modes of Responsibility', Part 3*. University of Oxford, St Cross College, St Giles, 25 November 2010).

- "Freedom, Responsibility, and Natural Phenomena" (*The 2010 Uehiro Lectures, 'Modes of Responsibility', Part 2*. University of Oxford, Faculty of Philosophy, Lecture Room, 10 Merton Street, 22 November 2010).
- "Who is a Victim of Homicide?" (*The 2010 Uehiro Lectures, 'Modes of Responsibility', Part 1*. University of Oxford, Oxford Martin School, Old Indian Institute, Broad Street, 16 November 2010).
- 「動物への配慮」の欠落と充実」(死生学シンポジウム「ヒトと動物の関係をめぐる死生学」第二部「動物の倫理」での伊勢田哲治氏発表および鶴田静氏発表へのコメント、東京大学理学部小柴ホール、2010年9月4日)
- "Degrees of Freedom and Life Science" (*Metaphysics of Science Conference*, Kyung Hee Global Research Network Team, Seoul, Korea, 5 August 2010)
- 「生命現象と自由」(第10回東京大学生命科学シンポジウム、東京大学本郷キャンパス安田講堂、2010年5月1日)
- "Ontology and Ethics of Killed People" (*The 4th BESETO Conference of Philosophy: The Future of Philosophy in East Asia*, Seoul National University, Seoul, Korea, 7 January 2010).
- 「バークリの視覚論から数学論へ」(哲学会第48回研究発表大会シンポジウム「感覚・知覚論再考ーバークリ『視覚新論』300年ー」提題、東京大学、2009年11月1日)
- 「殺人の被害者とは誰かー死のメタフィジックスの断面ー」(第19回白山哲学会、東洋大学、2009年10月24日)
- 「エピクロスの死無害説からする死刑論再考」(「ギリシア政治哲学の総括的研究」科研費研究集会、首都大学東京、2009年10月4日)
- "Counterfactuals and Degrees of Truth: Comments on Professor Timothy Williamson's arguments in 'Knowledge of Counterfactuals'" (*The 14th International Meeting of Hongo Metaphysics Club*, The University of Tokyo, 2 October 2009.)
- "Hume's Determinism Undetermined" (*the Lectures of Distinguished Scholar, Seoul National University BK21 Group for Philosophical Education and Research*, Seoul National University, Seoul, Korea, 17 July 2009).
- 「戦争をめぐる事実と規範」(死生学ワークショップ「戦争と戦没者をめぐる死生学」、第4セッション「戦争の倫理」での朴政淳氏発表および小林正弥氏発表へのコメント、東京大学文学部、2009年6月6日)
- "Ontological Vagueness and Metaphysics: A Case of Free Will" (*Interdisciplinary Ontology Forum in Japan 09*, Keio University, Tokyo, Japan, 1 March 2009).
- "Uncertainties over Medical Diagnoses of Mentally Disordered Offenders" (*2008 Carnegie Uehiro Oxford Conference*, St Cross College, The University of Oxford, UK, 11 December 2008).
- "A Dilemma over Mentally Disordered Offenders" (*Research Seminars*, Department of Philosophy, Durham University, UK, 4 December 2008).
- "An Epistemology of Responsibility: A Probabilistic Approach" (*Lecture Series: Philosophy and Public Policy*, London School of Economics, UK, 17 November 2008).
- "Plato on Moral Dilemmas: Comments on Professor Schofield's arguments in 'The Rule of Knowledge'" (「ギリシア哲学科研費研究会・M. Schofield先生を招いてーPlato, 第4章と第5章をめぐるー」、東京大学文学部、2008年10月1日)
- "Vagueness of Free Will" (*The XXII World Congress of Philosophy*, Seoul National University, Seoul, Korea, 31 July 2008).
- "Freedom and Subvaluationism" (*The Second BESETO Conference of Philosophy: Philosophy and East-Asian Thoughts*, Peking University, Beijing, China, 27 December 2007).
- "Uncertain Responsibility for Gene Manipulation" (*International Conference on Genethics in East Asian and Western Contexts*, Hong Kong Baptist University, Hong Kong, China, 10 December 2007.)
- 「人類進化について語ること」(死生学ワークショップ「生命科学と死生学の共働」、青木健一氏発表「ネアンデルタールとホモ・サピエンスの交替劇」へのコメント、

- 東京大学文学部、2007年12月1日)
- 「感覚的知識とプロバビリティとの間ーロック知識論のダイナミズムについて」
(第1回ジョン・ロック研究会、学習院大学、2007年7月28日)
- 「個人と人格との相克ー刑事責任に見る近代の自律的人間観の陥穽とその超克」
(UT-SNU Forum「人文学の可能性ーその方法と実践」、韓国・ソウル大学、
2007年6月25日)
- 「「音楽化された認識論」の展開」(第74回公共哲学京都フォーラム「自己と他者の
あらい」発題、大阪・中之島リーガロイヤルホテル、2007年6月11日)
- "Meaning as Cause: A Philosophically 'Uncertain' Investigation" (Comments on
Professor Horwich's Presentation, "Meaning as Use") (*The International
Wittgenstein Workshop at Tokyo, The University of Tokyo, Japan, 2 June 2007.*)
- 「動物実験と Animal Rights」(ヒトと動物の関係学会第13回学術大会シンポジウム I
「動物実験を考える」提題、東京大学農学部、2007年3月17日)
- 「確率的因果と「シンプソンのパラドックス」」(京都大学21世紀COE「現代科学・
技術・芸術と多元性の問題」第2回「哲学系若手研究者育成プロジェクト」
研究会「統計学の哲学と推論」提題、京都大学文学部、2006年12月16日)
- 「正常ならざる殺人の連続的広がり」(21世紀COE「死生学の構築」国際シンポジウム
「精神医療と触法行為の死生学ー殺人行為をめぐるー」パネル・ディスカッショ
ン提題、東京大学本郷キャンパス、2006年12月9日)
- 「原因・結果・理由の迷宮ー確率的因果からの探究ー」(本郷哲学研究会コロキウム
「因果論をめぐる」提題、東京大学本郷キャンパス、2006年11月8日)
- 「「ソライティーズ・パラドックス」に現れる段階的变化について」(日本科学哲学会第
38回大会ワークショップIV「不確実性の論理ー確率と曖昧性ー」提題、東京大学
駒場キャンパス、2005年12月4日)
- 「不確実性の認識論ー確率・因果・曖昧性をめぐってー」(2005年度哲学若手研究者
フォーラム・テーマレクチャー「認識論はどこへゆく? 2」提題、八王子・
大学セミナーハウス、2005年7月30日)
- 「因果と確率の連関をめぐる考察」(日本行動計量学会第33回大会シンポジウム「因果
は本当に証明できるのか?」提題、長岡技術科学大学、2005年8月29日)
- 「歴史認識における因果と確率」(日本哲学会第64回大会シンポジウム「歴史認識と
歴史叙述のあいだ」提題、一橋大学、2005年5月21日)
- "A Decision-Theoretic Approach to Problems of Confirmation: In View of Medical
Decision" (Tokyo University International Conference, *Consent and Decision
concerning Life and Death, Part 1, The Philosophy of Facing Uncertainty:
Epistemic Limits, Probability, and Decison*, The University of Tokyo, Japan,
11 December 2004.)
- 「原因と結果の迷宮」(日本心理学会第67回大会ワークショップ「因果論と因果の心理
学」提題、東京大学、2003年9月13日)
- 「自由・偶然・必然ーヒューム哲学から見る問題の深淵」(日本イギリス哲学会
第26回研究大会シンポジウムII「自由と必然」提題、香川大学、
2002年3月30日)
- 「生と死の「分離」と「別離」」(第94回東京大学公開講座「分ける」、
東京大学大講堂(安田講堂)、2000年10月14日)
- 「人格の生成」(哲学会第36回研究発表大会シンポジウム「人格の生成」提題、
東京大学、1997年11月2日)
- "Hume's Three Concepts of Cause" (The 24th Hume Conference, Monterey, California,
USA, 1 August 1997.)
- 「罰されうる人格ー原点ロックからの出発」(日本イギリス哲学会第21回研究大会
ミニシンポジウム「パーソンと社会」提題、聖心女子大学、1997年3月30日)
- 「連合と記述のはざまに」(第19回現象学解釈学研究会シンポジウム「現象学と経験論
の系譜」提題、八王子・大学セミナーハウス、1996年11月30日)
- 「「esse is percipi」と実践的精神ーバークリの「観念」を越えて」(日本イギリス
哲学会第19回研究大会ミニシンポジウム「ジョージ・バークリ」、亜細亜大学、
1995年3月26日)

- 「グッドマンの「グルー」と規則性の問題」（第2回白山哲学会、東洋大学、1992年10月8日）
- 「逆向き因果は論理的に不可能か」（科学基礎論学会講演会、大阪市立大学、1991年6月15日）
- 「ロックにおける人格と権利」（哲学会第28回研究発表大会、東京大学、1989年11月5日）
- 「ヒュームと神の存在の問題」（日本哲学会47回大会、岡山大学、1988年5月22日）
- 「バークリにおける能動的な精神」（日本哲学会第46回大会、慶應義塾大学、1987年5月24日）
- 「ヒュームの同一性議論」（日本イギリス哲学会第9回研究大会、甲南大学、1985年3月29日）